

金工の技法展～燕の鍛金編～

2013年6月1日(土)～6月16日(日)

会 場： 燕市産業史料館 企画展示室

鍛金技術は鋳金、彫金に並ぶ金工技術の一つです。金属の展性、延性を利用して加工して工芸品を作る技法をいいます。

燕の鍮起銅器は、約200年程前から鍛金技法の一つである「鍮起」によって製作を行ってきました。これは、一枚の銅板を金鍮や木槌を使いながら打ち延ばしたり、打ち縮めたりしながら器を作り上げる技術です。

明和年間(一七六四～一七七一)、仙台生まれの藤七という人物が来燕し「鍮起銅器」の技法が伝わりました。

今回は燕の地域で発達した技法を、作品と解説を対比させながらわかりやすくご紹介します。



木目金を延べる玉川宣夫(重要無形文化財保持者)

◇ 作品解説会 ◇

期 日：6月 2日(日) 玉川 宣夫
 6月 9日(日) 石高 靖男
 6月16日(日) 西片 亮太
 時 間：14:00～15:00
 会 場：企画展示室
 ※予約不要

主 催 / 燕市

会 期 / 6月1日(土)～6月16日(日)

休館日 / 6月3日(月)・6月10日(月)

開 館 / 9:00～16:30

入館料 / 大人300円・小人100円

※土・日・祝日は、燕市内の小中学生及び

付添保護者1名無料

事務局 / 燕市産業史料館 〒959-1263 新潟県燕市大曲4330-1

TEL: 0256(63)-7666 FAX: 0256(63)-7669

E-mail: sangyoshiryokan@city.tsubeme.niigata.jp

H P / <http://www.city.tsubame.niigata.jp/shiryou/index.html>

※次回企画展は「深澤 索一 版画展」です。